

ごめんね
こんな風^{ふう}に 君^{きみ}のことを 困^{こま}らせるの
最初^{さいしよ}で 最後^{さいご}だって 決^きめている
何^{なん}度も

やたら甘^{あま}すぎる チョコレイトみたいな
真^まっ白^{しろ}な夜^{よる}は 嘘^{うそ}だらけ お伽^{とぎばなし} 噺^せの世界^{かい}

本^{ほん}当^{とう}は ずっ^と 夢^{ゆめ}みていたの
本^{ほん}当^{とう}は ずっ^と 識^しらなかつた
眠^{ねむ}り姫^{ひめ}はね 王^{おう}子^じのキスを
待^まっているだけでは だめだと

ずるいよ
私^{わたし}だけに くれた 笑^え顔^がの せいにして
もう 一^{いち}度^ど 瞳^めを 瞑^{つむ}って 焼^やき付^つけた
最^{さい}後^ごに

君^{きみ}と 過^すごした この 白^ひ夜^びの すべてが
足^{あし}を 竦^{すく}ませ でも もっと 背^せ中^{なか}を 押^おして いるから

本^{ほん}当^{とう}は 全^{ぜん}部^ぶ 識^しらなかつたの
本^{ほん}当^{とう}は 全^{ぜん}部^ぶ 理^り解^かっていた
目^めを 醒^さま させな きゃ いけない んだね
君^{きみ}との 朝^{あした}では なく ても

云^いいた くて 云^いえ な かつた 言^{こと}葉^ば 指^{ゆび}先^{さき}で 灯^{とも}す 度^{たび}に
一^{ひと}言^{こと}ごと 君^{きみ}に ふ ら れ て く 感^{かん}触^{しよく} 息^{いき}も でき ない くらい

本^{ほん}当^{とう}は ずっ^と 夢^{ゆめ}みていたの
本^{ほん}当^{とう}は ずっ^と 識^しらなかつた
雲^{くも} ひとつ ない は じ め て の 青^そ空^ら

す む こころ し
擦り剥いた心に 沁みてく